

都市再生整備計画 事後評価シート
高崎駅東口周辺地区

令和3年2月

群馬県高崎市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	群馬県	市町村名	高崎市	地区名	高崎駅東口周辺地区		面積	95.1 ha
交付期間	平成29年度～平成31年度	事後評価実施時期	令和2年度	交付対象事業費	2,942.6 百万円	国費率	0.4	

1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名					
	当初計画から削除した事業	基幹事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(高崎駅東口ペDESTリアンデッキ整備事業) ・高次都市施設(地域交流センター整備事業) 					
		提案事業						
	新たに追加した事業	基幹事業	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	
		提案事業	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	
交付期間の変更	当初	平成29年度～平成32年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		・民間企業による駐車場整備が想定以上に進展する見込みとなり、公による整備をしないこととしたため ・施設の案内だけでなく、観光案内との一体整備や、看板方式からデジタルサイネージの検討等を行っていく中で、当初計画どおりの整備とはならなかったため ・整備計画期間を短縮したことにより、事後調査の外部委託について予算措置ができなかったため			
	変更	平成29年度～平成31年度	・地域交流センターの整備を中心とした集客力の向上や機運醸成を図った整備計画であり、当該事業が期間内で完了したため、指標や目標について、交付期間変更による影響はない					

2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
指標1	まちなか歩行者通行量	人/日	48,256	H28	50,000	H31	—	70,087	○	あり	東口周辺での開発計画による期待度の高まりから注目度が増し、さらに中心市街地でのまちなかサイクル、ぐるりん都心循環線など移動手段の多様化による回遊性の向上を図った試みや、ペDESTリアンデッキの延伸による快適で安全な歩行経路の整備により、駅のほか目的地のみの往来で留まっていた歩行者の回遊性が向上したと考えられる。	令和5年3月
指標2	中心市街地内の文化施設の年間利用者数	回/年	648,078	H28	1,070,000	H31	—	613,395	×	あり	音楽を始めとした文化や芸術に対する市民の機運醸成が見られたものの、コロナの影響により、期待していた高崎芸術劇場のみならず、全ての文化施設において催し物の中止が相次ぎ、目標値を達成することが困難となった。	令和5年3月

3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						

4) 定性的な効果発現状況

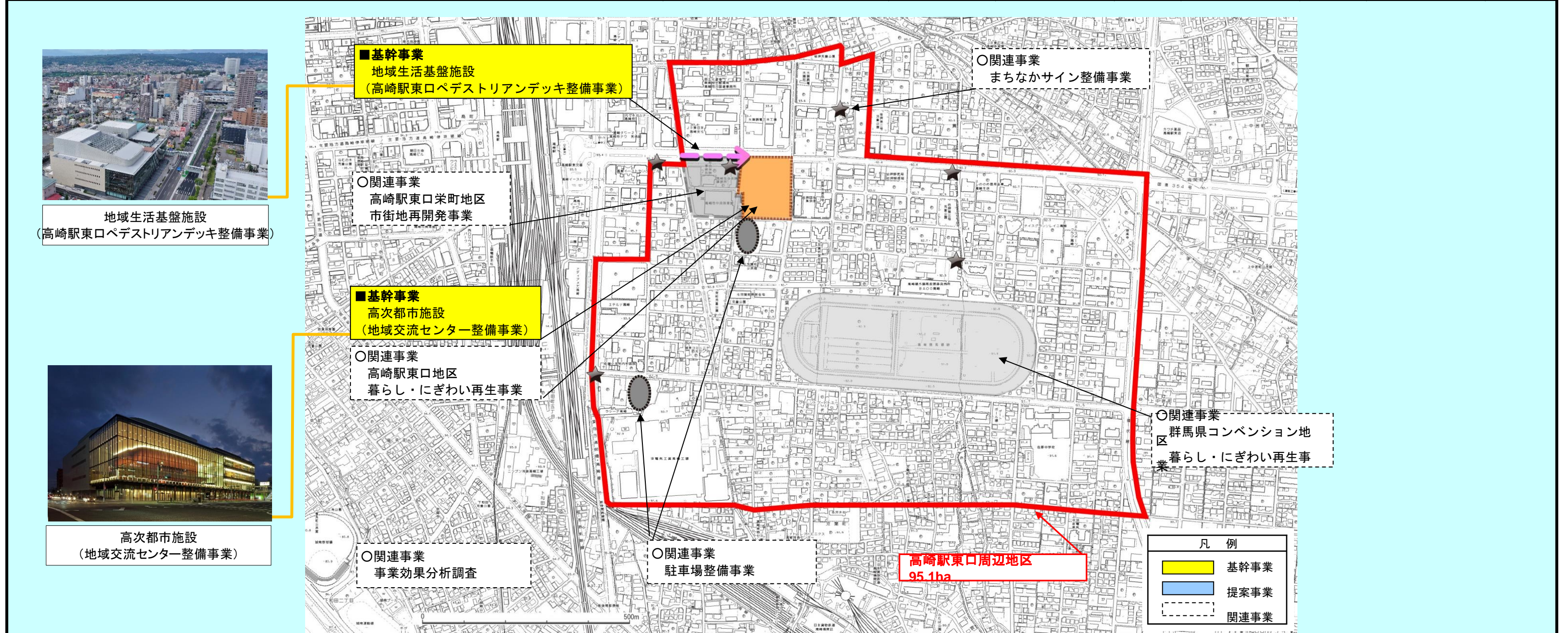
・当該地区においては、東口周辺での開発計画による期待度の高まりから注目度が増し、民間資本による駐車場建設やマンション建設など積極的な投資が誘発された。さらに中心市街地では、まちなかサイクルやぐるりん都心循環線に加え、お店ぐるりんタクシーなど移動手段の多様化などにより、駅のほか目的地のみの往来で留まっていた歩行者の回遊性が向上してきている。
 ・高崎芸術劇場が完成し、新たな劇団や文化芸術活動を行う団体や個人の活動が活発化してきており、音楽を始めとした文化や芸術に対する市民の機運醸成が見られた。

5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	住民参加プロセス	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式2-2 地区の概要

高崎駅東南地区(群馬県高崎市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	【目標1】コンパクトシティ形成のために、まちなかに魅力的な都市機能を集積し、人・もの・情報・文化の発信拠点として躍進する「集客都市たかさき」を創造する。	まちなか歩行者通行量	単位: 人/日	48,256	H28	50,000	H31	70,087
【目標2】本市の経済・文化の創造と牽引を図り、産業と芸術文化が溢れるまちづくりを目指す。	文化施設の年間利用者数	単位: 人/年	648,078	H28	1,070,000	H31	613,395	H31
		単位:						
		単位:						



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 高崎駅の西口では大型商業施設の開業や高崎アリーナの開館とともに、東口周辺では、高崎芸術劇場やGメッセ群馬などの集客施設の開館が相次ぎ、これらの動きに誘発される民間投資による施設建設が相乗効果として出現し、さらなる賑わいの創出が期待されるが、魅力ある店舗や公共施設が集積し、定住するにも来訪するにも利便性の高い「コンパクトシティ」の実現には至っていない。 高崎芸術劇場の完成により、「音楽のある街 たかさき」の拠点として、群馬交響楽団をはじめとした文化芸術や経済産業等の資源を広く発信していく手段や施策を展開していく必要がある。 高崎アリーナや高崎芸術劇場、Gメッセ群馬等の高崎駅周辺に集積した大型集客施設により増加する来街者について、駅東西の行き来に留まらず、周辺商店街等中心市街地内を回遊させるハードとソフトのバランスの取れた施策が望まれる。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> えきなか、駅西口の大型商業施設、駅周辺の大規模集客施設等による集客力を中心市街地全体の賑わいに繋げていくため、まちなかの多様な移動手段の周知と浸透を図りながら、近隣はもちろん、広域からの来街者が再訪したくなるような、活力ある都市づくりを推進する。 マンション建設等民間投資意欲が高まり、中心市街地の定住人口は安定的に増加している中で、真に「安心安全で、子どもから高齢者までの誰もが快適に暮らせる都市」を目指し、バリアフリーな生活環境とともに、特に子どもたちが創造性を育みながら、子育て世代の交流と憩いの機能を備えた施設を検討していく。